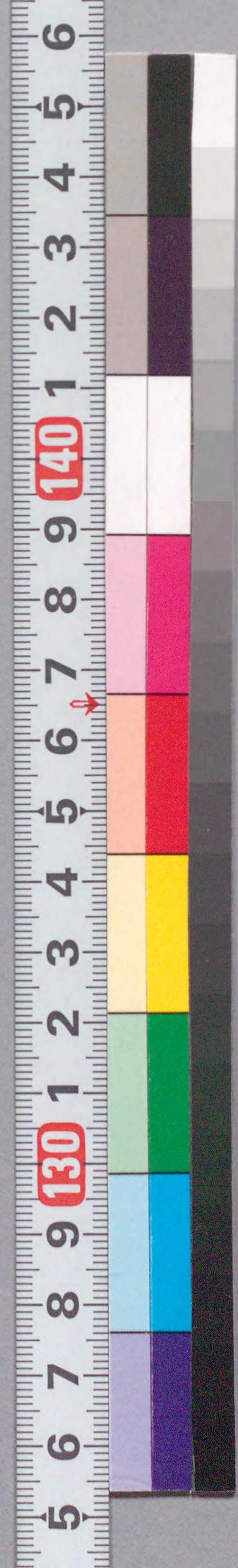


207
829

男達河川花の紀
大徳

女
子
武
館
八



国立国会図書館 男達吾孀花川戸 207-829

ガラス使用



體を奪て骨をうらうらと名譽作家の錦心繡口暗着の趣向をのめあ
 筆下画様の脚色も其終模写前後點智の引返し仕立直一の補
 綴任事ハ是吾黨の流沢物なり近頃新形の揮史續譚世ハ流
 行ハ奇々妙案を競ふこと蚕の糸の四季をまきまきハ意ハまうせ
 織出巧ハ各々類等うらハ僕も好めず道ゆハ仁田山水綿の
 詭譎ハうらうらも手織を一巻編出さんキナヤン頓間の筆拍子
 新古の差別も白井の糸口蚕家四度の大眠寐言を吐く生蘭の化
 く飛ぶ蝶兵衛傳記名高の標題を硯の水ぬひして今將洗ハ張
 紙袋の衣裝とあつてびく尾羽らち枯紙衣の襪襪立ハ取さる子
 路ハあつて未素人の鉄面皮袖襷揃ハ名筆の綾こつてつる糸筋
 もたれハ綴の緑語ハ細く長くの御取立猶御具員を願ふハ飛ん

安政四己新春發行

三

鈍亭魯文記





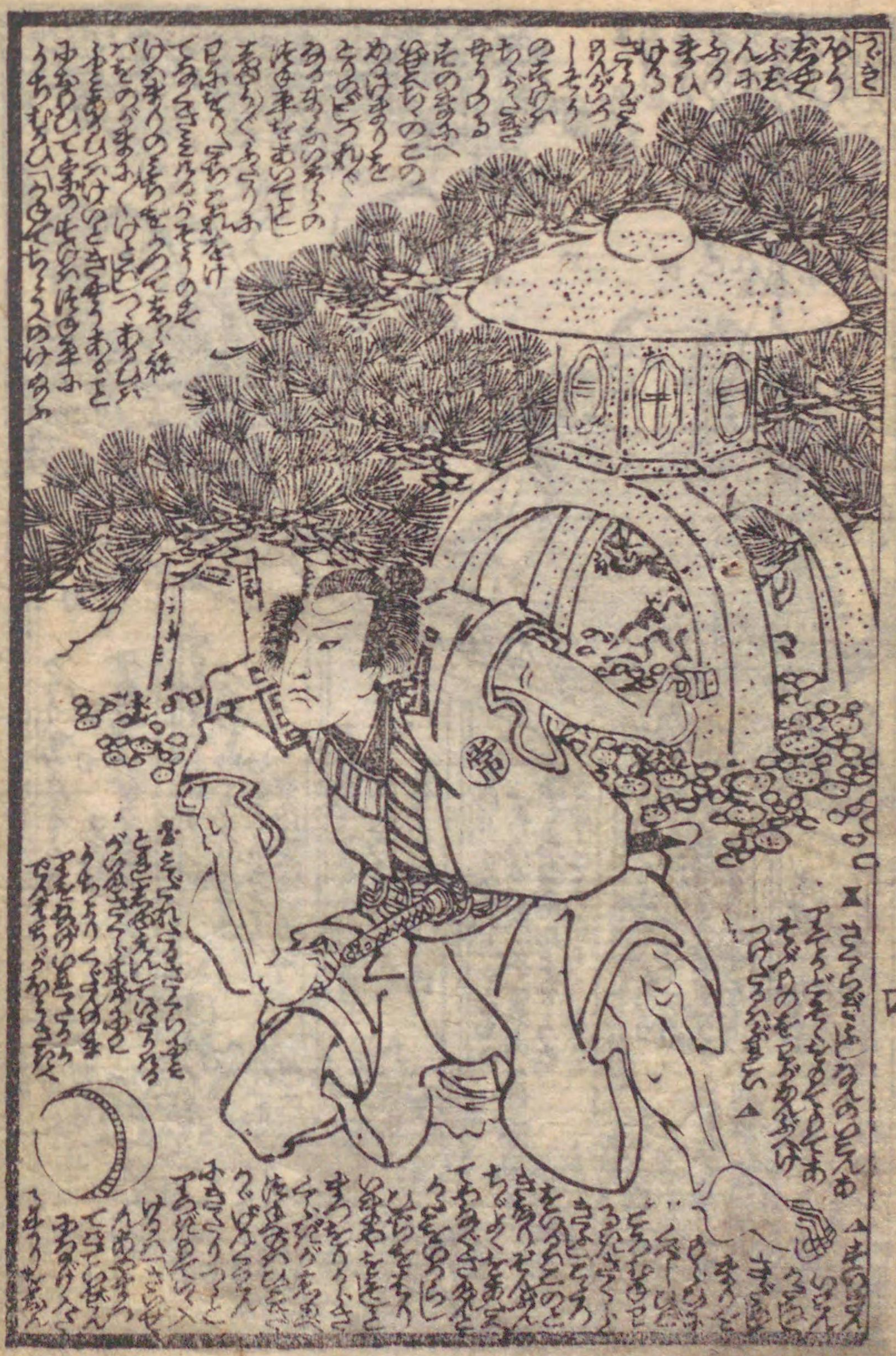
Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or a story related to the illustration on the opposite page. The text is densely packed and covers most of the page area.



衣人衣人

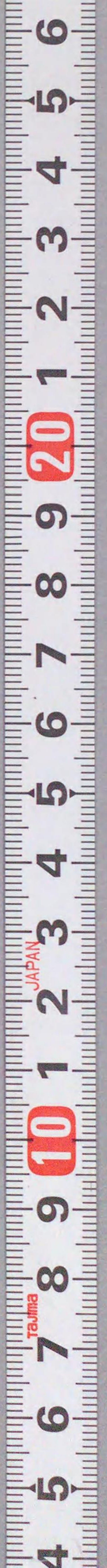




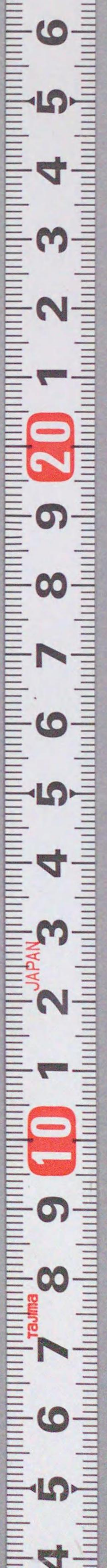
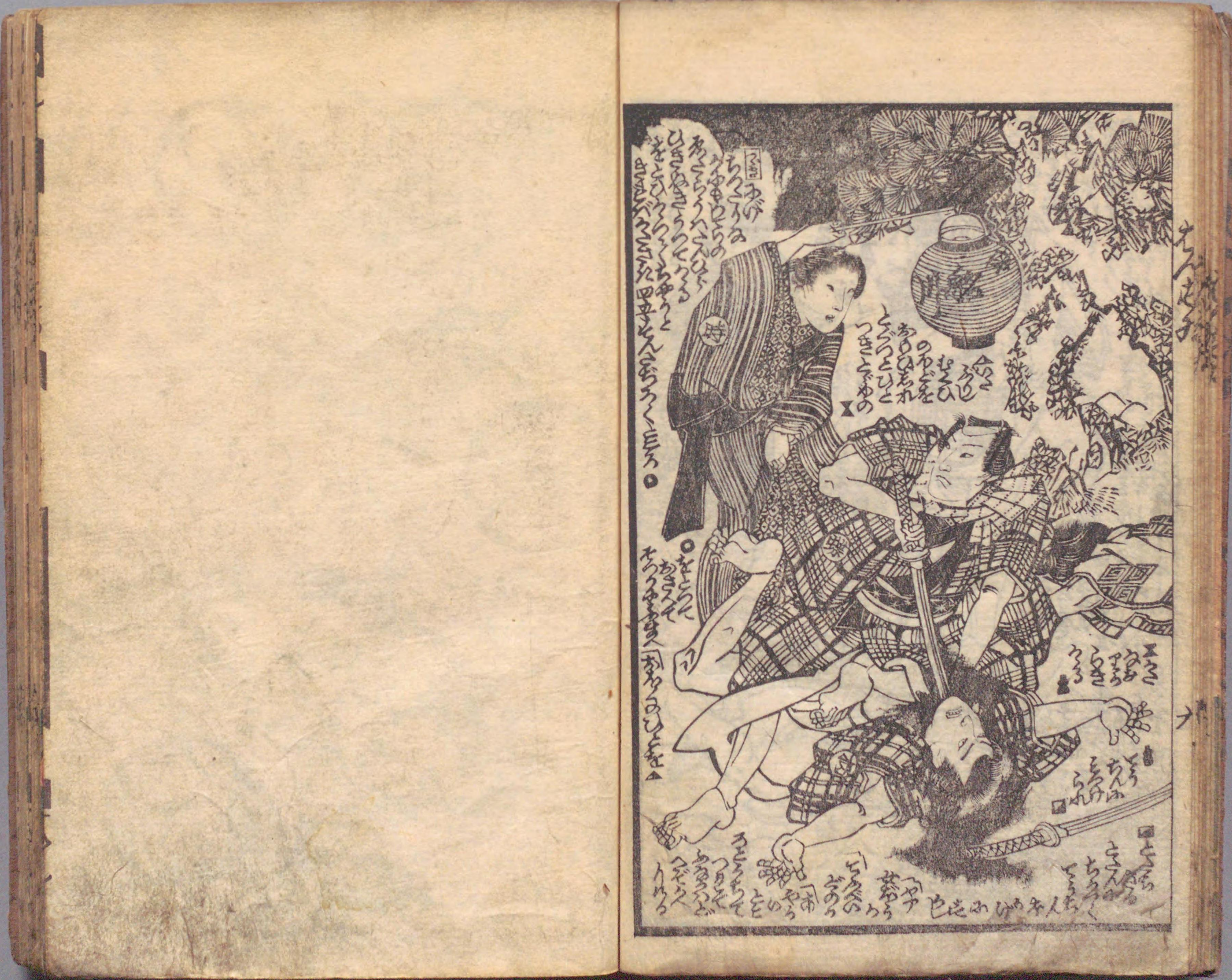
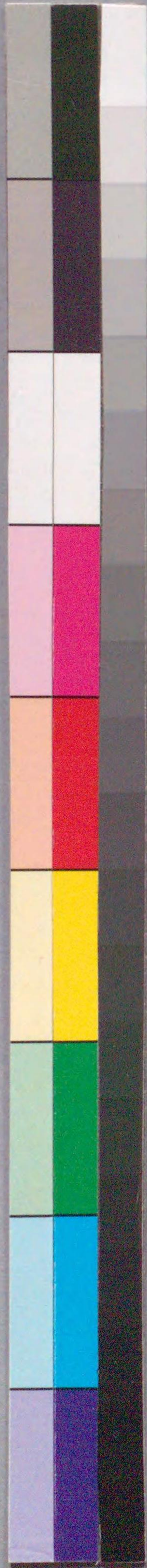




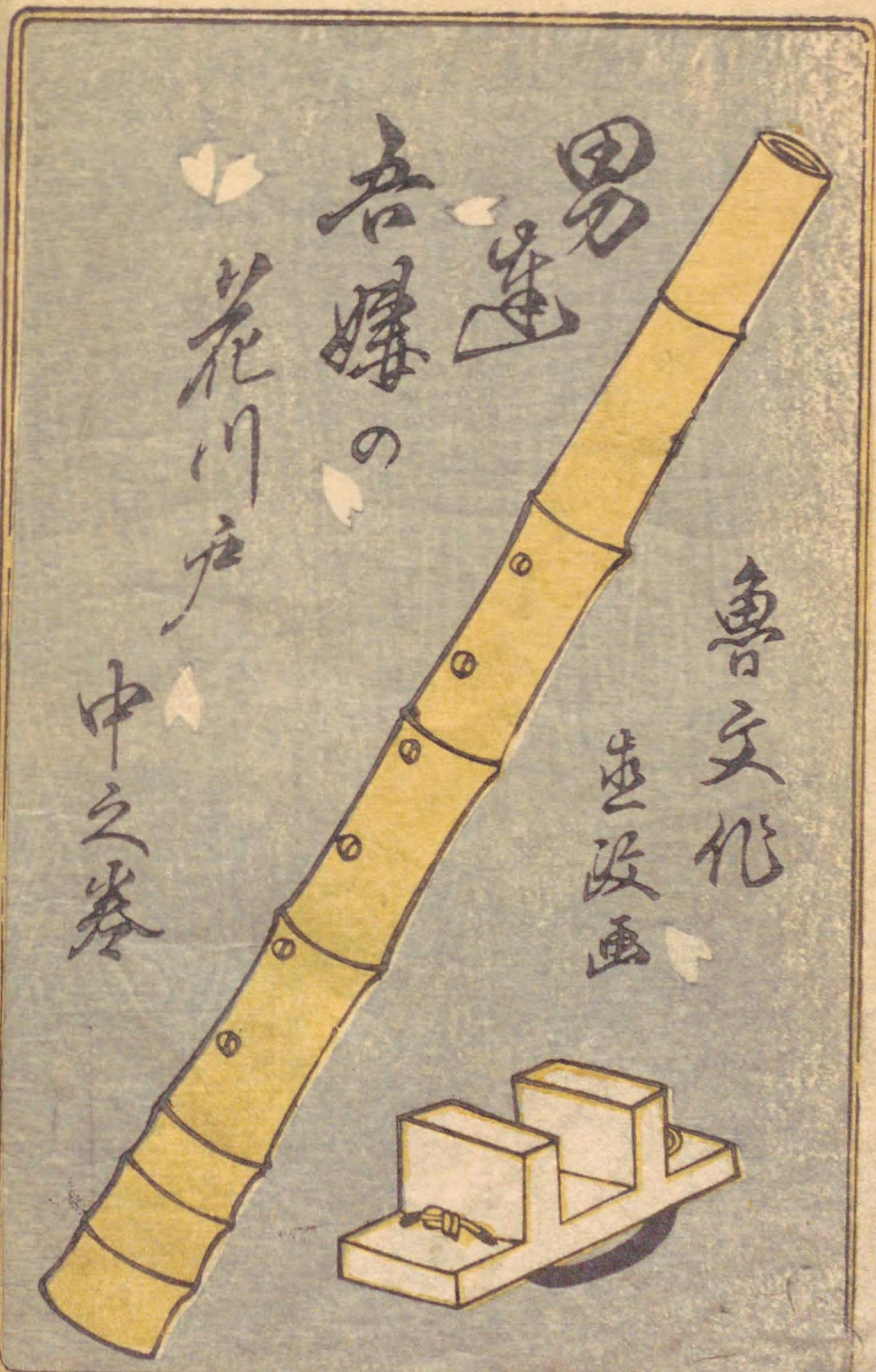
















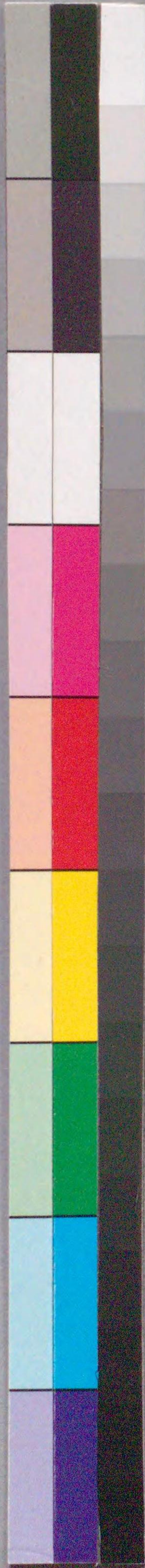
















蠅頭微
利角
虚名

純真



男達吾嬢

花川戸

下

巻

純真作

一室翁
画



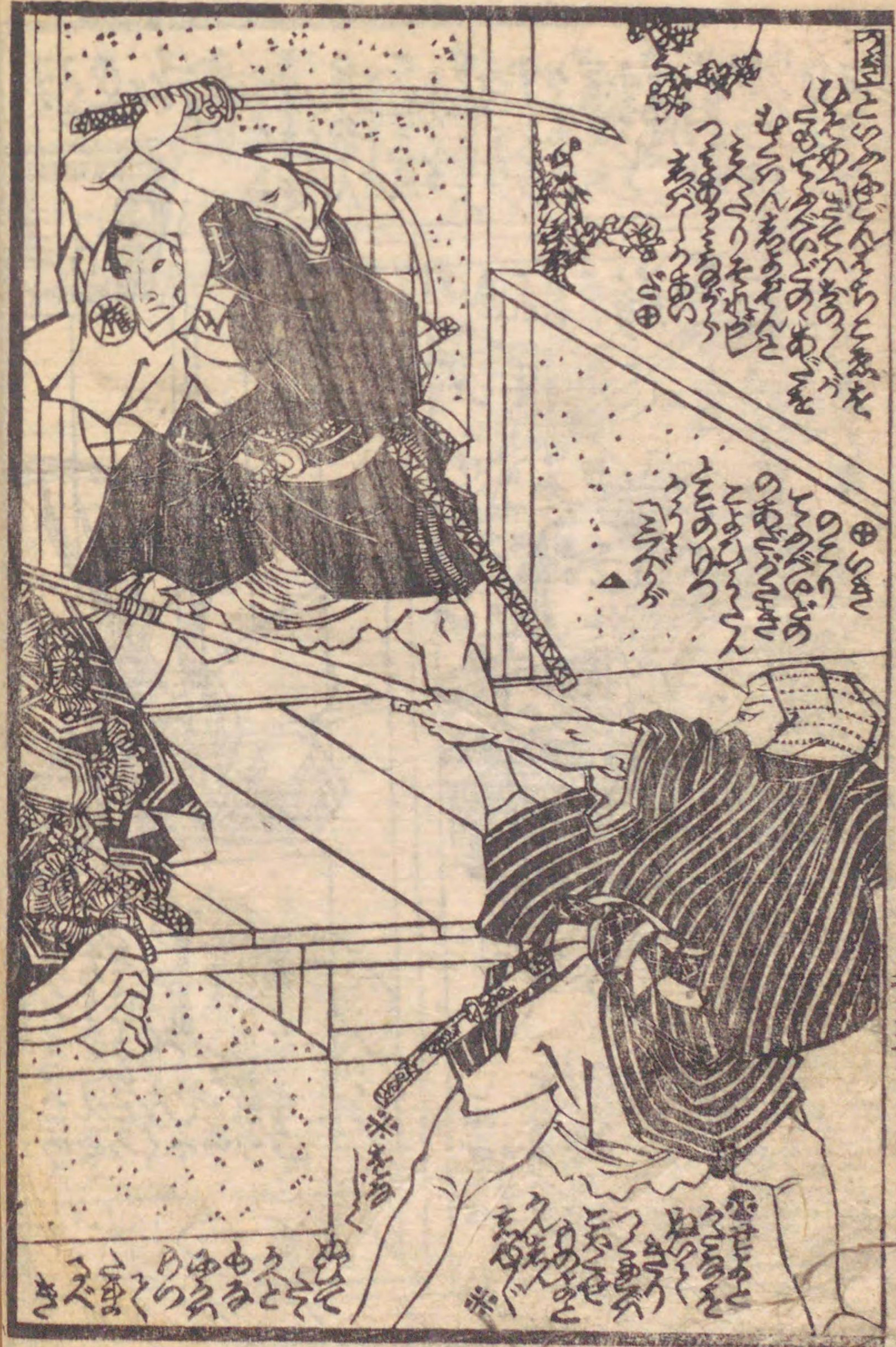












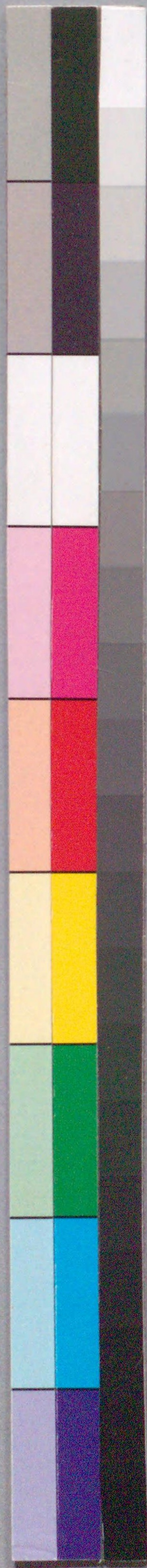


JAPAN
10 20

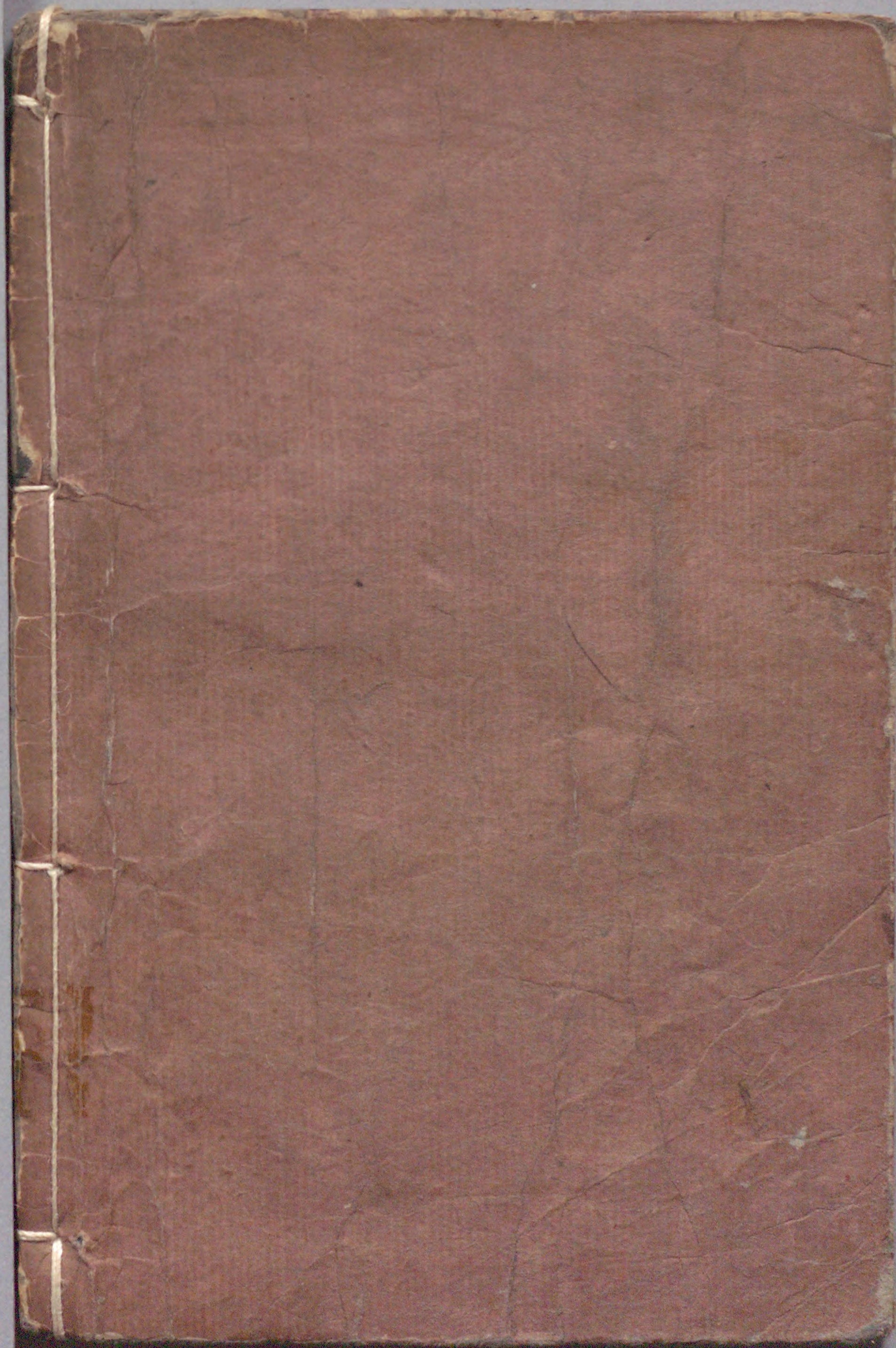


207
829





国立国会図書館 男達吾孀花川戸 207-829



ガラス使用

